

## English follows Japanese

### 創世記 18 章 1-15 節 神にはできます。 God is able

先週、契約のしるしである割礼について語り聖句の学びを締めくくりました。神がアブラハムに男の子を遣わすという約束を繰り返されるのを見ました。また、神がアブラハムの名だけではなく、サラの名も来るべき息子の約束を強めるために変えられるのを見ました。ここまで、契約の約束はアブラハムに与えられ、再びより明確に述べられました。しかし、その約束はアブラハムだけのためではなくサラのためでもありました。今日のエピソードは 17 章の出来事に引き続き程なくサラが彼女自身約束を与えられ、彼女の夫と全く同じ反応を示します。彼女は笑ったのです。あなたは神を笑ったことがありますか。あなたは聖書を読んでいて、他の人にはうまくいったかもしれないけれど、神は私にはそんなことしてくれないでしょうなどと言ったことがありますか。神がアブラハムとサラにこの契約を与えたように、神が約束をなさる時、私たちは神はその約束を守られると信頼すべきです。しかし、長く待つ時間の間、私たちの反応は多くの場合、今日見るサラのようです。今日の聖句に入る前に祈りましょう。

次の 2 章の出来事に導くこのエピソードがどのように始まったかを見る 1-8 節を読みましょう。1. 主は、マムシの樫の木のとこで、アブラハムに現れた。彼は、日の暑いころ、天幕の入り口に座っていた。2. 彼が目を上げて見ると、なんと、三人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはそれを見るなり、彼らを迎えようと天幕の入り口から走って行き、地にひれ伏した。3. 彼は言った。「主よ。もしもよろしければ、どうか、しもべのところを素通りなさらないでください。4. 水を少しばかり持って来させますから、足を洗って、この木の下でお休みください。5. 私は食べ物を少し持って参ります。それで元気をつけて、それから旅をお続けください。せっかく、しもべのところをお通りになるのですから。」彼らは答えた。「あなたの言うとおりにしてください。」6. アブラハムは、天幕のサラのところに急いで行って、「早く、三セアの上等の小麦粉をこねて、パン菓子を作りなさい」と言った。7. そして、アブラハムは牛のところに走って行き、柔らかくて、おいしそうな子牛を取り、若い者に渡した。若い者は手早くそれを料理した。8. それからアブラハムは、凝乳と牛乳と、料理した子牛を持って来て、彼らの前に出したので、彼らは食べた。彼自身は木の下で給仕をしていた。

ここで誰がアブラハムとサラに話をするために姿を現すか気づいてください。聖書はここで主が彼に現れたと言っています。あなたの英語版の聖書がどの訳であろうと、この一節の LORD、主、は全て大文字で書かれているはずですが、日本語版では、少なくとも新改訳では、主は太字フォントで書かれています。これらの書き方は神の固有の御名、ヤハウェを指します。ですから、基本的に神御自身、旧約聖書でのイエスのまた一つの登場シーンであり、二人の天使と共にアブラハムに来られます。アブラハムはこれが神との出会いであると気づいているようです。彼は 3 節で彼らにヤハウェと言う名称は用いませんでした。その代わりにアドナイ、私の主と呼びました。アブラハムは 3 名に向かって話すのに複数形ではなく単数形を用いています。これは、彼が一人の唯一の神がこの状況に臨まれていることを理解しているを示しています。

もし神御自身が来られてアブラハムの前に現れるとしたら、あなたは何か本当に重要なことを告げに来られたと思いませんか。もちろんそうです。聖句が進んでいくと神がアブラハムにもたらされる重要なメッセージ、特にこの場合はサラも含まれています。今日、私たちが座ってこの聖句を読む時、神御自身が直接このアブラハムという人に来られて話しかけられると言うことを考えると驚愕しませんか。私たちは聖書でよく神が来られて彼の創造物である人に話しかけられるのを見ます。しかし、口には出しませんが、心では神が人の前に現れて話され、共に人と時間を過ごすことは、その昔、遠い過去にあったことと思っています。しかし、皆さん神は今も世に介在されます。神はいつもいない神ではありません。神はアブラハムに現れたようにあなたにも現れるでしょうか。同じようには現れないでしょう。

ヨハネの福音書 1 章 18 節は言います。"いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。"

そしてテモテへの手紙 第一 1 章 17 節では、こうわたしたちに言っています。"どうか、世々の王、すな

わち、朽ちることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように。アーメン。あなたはこう聞かれるかもしれません。イエス様はどうなったのですか。もうすでに、私はイエスが旧約聖書で肉体的に現れていると言いました。ここでも、いらっしゃったのはイエス様ではないでしょう

か。神が受肉されて来られる時、三位一体の二番目の位格である神の御子は人としてこの地上に存在されました。それでも、イエス御自身はヨハネの福音書 16章7~11節 でこう言っています。 7. *しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。* 8. *その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。* 9. *罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。* 10. *義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。* 11. *さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。*

眼に見えない神と聖霊なる神の臨在は神の民によって完全に知られます。それで、イエスは彼が物理的にいない方がより良いと言っていました。少し、違った言い方をさせてください。あなたは神を肉体的に見る必要はありません。なぜならば、あなたには霊的な神の御臨在が、聖霊なる神の位格の内住が常にあるからです。さて、これは新約聖書と拡張された普遍教会の恵みの契約と教会形成はアブラハムの時代の古い契約の下とは異なります。イエス様によると神の御子イエス様の物理的な臨在がない方が実際代わりに聖霊なる神の絶え間ない永続的な臨在があるので、より良いのです。

そして、もちろんアブラハムは彼らの天来の本質と彼らの訪問の天与の祝福に気づき訪問者たちを賓客としてもてなします。そして、ただの数節の内にこの食事のための準備を見ます。しかしこの食事のための準備を見ると、これが時間のかかるかなりの御馳走であることが分かります。この食事の献立には出来合いの物はありません。子牛が屠られ、パンは一から焼かれ、御馳走が食卓に並べられました。そして、きっと全員が客と共に食事に参加した事でしょう。アブラハムの神御自身、神の御子、イエス・キリストと思われるお方の御前で食事の支度と食事が振舞われる間、主との会話がどんなであったか想像できますか。神がアブラハムにメッセージ特にサラにメッセージを与えるために来られた時、アブラハムはこの神との会合を長時間の神との交わりの時に変えました。教会の皆さん同じ神が今日私たちと共に、三位一体の第三位格の聖霊なる神としておられます。ですから、今日まだ私たちは神と交わり、会話し、学びに与り、神の御声に聞き入る時間を過ごすことが可能です。それにはどうすればよいのでしょうか。

*ペテロの手紙 第二 1章 19~21節* 19. *また私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜が明けて、明けの明星があなたがたの心に昇るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。預言の御言葉とは、聖典、つまり聖書です。ペテロが 20 節で続けると明らかになります。 20. *ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。* 21. *預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです。* "*

ですから信者である私たちに内住される神なる聖霊こそが神の御言葉、今日私たちが持つ聖書を形作られたお方です。そして、その御言葉の内に神は語られるのです。あなたが聖書を読む時、文字通りあなたは神のお言葉を読んでいるのです。あなたは神についての教科書や神についての考えや神からの考えや思いを読んでいるのではありません。あなたは、実際、神御自身からのあなた宛ての手紙を読んでいるのです。

この聖句は神がサラとの契約を確認することが中心です。そして、神は今日も私たちへの御言葉と私たちへの約束を確認されています。神は私たちに救いの賜物と日々の生活のための恵み、人生そのもの、そしてその他の多くの約束が真実であることを確認されます。神はそれらの私たちのための約束を神の御言葉を通して私たちと会われることによって確認されます。神がアブラハムに物理的に来られたように、神は私たちのための神の約束を確認するために私たちが神の御言葉に入ると霊的に会ってくださるのです。もし、あなたが神があなたの家に来られると知ったら、あなたもアブラハムがここでしたと同じことをするでしょう。あなたは御馳走を準備するでしょう。あなたは最高の食事を最高の食器に盛って並べるでしょう。あなたは住まいを端から端まできれいに掃除するでしょう。そして、この神の訪問を最大限の恵みとするために最大限の時間を使うでしょう。あなたには、毎日神に会う機会があります。ただ、この書を開けばよいのです。それにもかかわらず、私たちのうちどれくらいの人たちの聖書は何日も、何週間も、また何カ月もほこりをかぶっているのでしょうか。私たちは大急ぎで聖書を5分足らずで流し読み、今日のお務めは終了と思っています。夜は疲労困憊で床に就き、眠りに落ちる前に電報のような祈りを神に唱えますが神の御声に耳を傾ける時間はありません。そんな私たちは、なぜアブラハムのように神との間の親密さを体験できないのだろうかと思いに思っています。神とどうすれば共に時間を過ごすことができるのか、どうすれば聖霊からのささやきを聞くことができるのか、は極秘ではありません。毎日の改まった聖

書研究の時間である必要はありません。あなたは読むことすべてを理解する必要はありません。質問疑問があっても良いのです。とても疲れていて聖書を開く時間がない日があっても良いのです。時として、神がその日に私たちが神に仕えることができるよう私たちを形作るために語りかけるたった一節について繰り返し瞑想するだけでも良いのです。

申命記 6章 6～9節で神は神の御言葉についてイスラエル人を指導するためにこう言います。6. 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。7. これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。8. これをしるしとして自分の手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。9. これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい。イエス・キリストの弟子として、私たちは私たちの神と時間を共にして御言葉の民となるべきです。それには、神の御言葉に浸された人生を送り、私たちの日々の生活での私たちの考えること、話すこと、行うことが自然と御言葉に沿うようになるのです。神と御言葉の内に時間を過ごすとはそういうことです。

さて、わたしはこの聖句がサラに焦点を当てていると言いました。これらの使者は特別に彼女にアブラハムに与えられたと同様の男の子の預言を彼女に与えました。それでは 9-15 節を読んで彼女がこのメッセージを聞き何が起こるか見てみましょう。9. 彼らはアブラハムに言った。「あなたの妻サラはどこにいますか。」彼は答えた。「天幕の中におります。」

10. すると、そのうちの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには男の子が生まれています。」サラは、その人のうしろの、天幕の入り口で聞いていた。

11. アブラハムとサラは年を重ねて老人になっていて、サラには女の月のものがもう止まっていた。

12. サラは心の中で笑って、こう言った。「年老いてしまったこの私に、何の楽しみがあるでしょう。それに主人も年寄りで。」

13. 主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑って、『私は本当に子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに』と言うのか。」

14. 主にとって不可能なことがあるだろうか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのところに戻って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」

15. サラは打ち消して言った。「私は笑っていません。」恐ろしかったのである。しかし、主は言われた。「いや、確かにあなたは笑った。」

さて、わたしはこの神の訪問が必ずしもアブラハムのためではなく、サラへのメッセージを届けるためでした。そして、彼らはサラの居場所を尋ねました。彼らがサラに直接伝える前に、彼女は彼らがアブラハムに彼らが彼女に伝えに来た事を話したのを聞きました。それはアブラハムが前の章で受けたメッセージと同じでした。一年以内に彼らには約束の子供が生まれる事です。しかし、ここで幾つかのとても個人的なふつうはマナーとして話さない情報が与えられました。サラはもう更年期を過ぎ、彼女にはもう子供を産むことができないことです。医学的、肉体的、人間的には不可能なことです。そして、彼女はアブラハムと同じ反応を見せません。彼女は笑いました。彼女は自分にはもう子供を産めないことが分かっているので笑いました。彼女は彼女がもう年老いており、彼女の夫同じ老人です。彼女が子供を産むのは不可能です。しかし、サラはだれがこの情報を彼女に与えたのかを忘れていました。彼女は誰がこの約束を彼女に与えているのかを忘れたのです。彼女の夫を通しての神の反応は、あなたはなぜ笑っているのか。主にとり難し過ぎることなどあろうか。神に難し過ぎることがあろうか。私たちが考えるべきその答えは、私たちが知る聖書からの正しい答えは、絶対にありません、です。エレミヤ書 32章 17節

『ああ、神、主よ、ご覧ください。あなたは大きい力と、伸ばされた御腕をもって天と地を造られました。あなたにとって不可能なことは一つもありません。』

もちろん、サラは彼女の反応によって、きっと私たちも同じようであるように困惑し、それを否定しようとし、しかし、神から何も隠すことは出来ません。神は私たちの不信心を、私たちの笑いを、私たち

の疑念を我慢され、それでも彼の約束を守られます。ですから、このメッセージの出発点である、神の御言葉に戻ることが重要なのです。たとえ、疑念を抱いていても、たとえ不信心のために笑ってしまう時も、神の私を信じなさいと言う神からメッセージを受け入れます。

神に難し過ぎることなどあるのでしょうか。いいえ、ありません。私たちは神の御言葉に近づき、神の約束、保証、守りと導きの御言葉を聞きます。私たちの生活に於いての絶え間ない神の御言葉の働きによって建て上げられた関係を通して神を信頼することを学びます。この一年後、サラとアブラハムは彼らの腕にイサクを抱くことになり、神を信頼することに関してはもう何も問題はありませんでした。聖書でこの物語を今読むことは私たちにその同じ神を私たちの生活、私たちの家族、私たちの財務、私たちの将来に関して信頼できると知るうえで役に立ちます。神には難しすぎることはありません。サラの笑いの反応が究極の約束されたメシアであるイエス・キリストをこの世に遣わす神の御計画を前倒し約束の男の子に導きました。イエスが神の御言葉の私たちへのすべての啓示の中心です。ですから、神の御言葉を読み、神の御声を聴けば、神はさらにキリストと主の生涯を弟子である私たちに啓示されます。私たちは神の御言葉を通して受け取った約束を信頼すべきです。私たちが今日直面しているまたは明日、将来直面する何事も主にとり難しすぎる事はありません。神は約束を守ることができます。また、守られます。祈りましょう。

## Genesis 18:1-15 God is able

Last week as we ended our last passage where we talked about the sign of the covenant, circumcision, we saw God repeating his promise to Abraham to send a son. We also saw God not only change Abraham's name but Sarah's name in order to reinforce the promise of this coming son. Up until now, each time that the covenant promise has been given and restated it has been to Abraham. But the promise is not just to Abraham but to Sarah as well. And in today's episode that comes shortly after the events of chapter 17, we see Sarah receiving the promise herself and offering the same response as her husband. She laughs. Have you ever laughed at God? Have you ever read something in the Bible and said, "that may work for others, but God can't do that for me"? When God makes a promise as he made this covenant with Abraham and Sarah, we need to trust that he can keep it. But in the middle of a long wait, our response is too many times like Sarah as we will see today. Let's pray before we get into this text today.

Let's read verses 1-8 where we see how this episode that will lead to the events of the next two chapters begins. **And the Lord appeared to him by the oaks<sup>[a]</sup> of Mamre, as he sat at the door of his tent in the heat of the day. <sup>2</sup>He lifted up his eyes and looked, and behold, three men were standing in front of him. When he saw them, he ran from the tent door to meet them and bowed himself to the earth <sup>3</sup>and said, "O Lord,<sup>[b]</sup> if I have found favor in your sight, do not pass by your servant. <sup>4</sup>Let a little water be brought, and wash your feet, and rest yourselves under the tree, <sup>5</sup>while I bring a morsel of bread, that you may refresh yourselves, and after that you may pass on—since you have come to your servant." So they said, "Do as you have said."<sup>6</sup> And Abraham went quickly into the tent to Sarah and said, "Quick! Three seahs<sup>[c]</sup> of fine flour! Knead it, and make cakes."<sup>7</sup> And Abraham ran to the herd and took a calf, tender and good, and gave it to a young man, who prepared it quickly. <sup>8</sup>Then he took curds and milk and the calf that he had prepared, and set it before them. And he stood by them under the tree while they ate.**

Notice who actually shows up here to talk to Abraham and Sarah. The Bible says here that the Lord appeared to him. In your English version, you should see no matter what version you are reading from that the word LORD in verse one is in all capital letters. In the Japanese version, at least the Shin Kai Yaku 17, you will see that Shu is bold. Both of these ways of writing it are showing that this is the proper name for God, YHWH. So, basically, God himself, perhaps another Old Testament appearance of Jesus, comes to Abraham with two angels. It seems that Abraham recognizes this encounter as divine. He does not use the term YHWH, as you can see in English by the use of lower case letters in verse 3 when he addresses them. Instead he calls them Adonai or Lord, lowercase. He actually uses the singular form of this word to address the 3 men. This shows his understanding that the one and only God, singular, is present in this situation.

Now if God himself is coming to Abraham and appearing before him, do you think that maybe he has something really important to talk to him about? Of course he does. As this passage continues we're going to see the important message that he brings to Abraham and specifically in this case even to Sarah. As we sit here today reading this passage and of course, I hope we're amazed thinking that God would come and talk to this man Abraham personally. We read stories like this in the Bible all the time of God coming and talking to his human creations. But too many times we think, although we may not say it out loud, we may not put it in these words, that God appearing and talking to people and spending time with his human creations is just something that happened long long ago in the past. But folks God still intervenes in the world. God is not an absent God. Now is God going to appear to you in the way that he appeared to Abraham? No, he's not.

[John chapter one verse 18 says 18 No one has ever seen God; the only God, who is at the Father's side, he has made him known.](#) And in [1 Timothy chapter one verse 17](#) we're told [17 To](#)

the King of the ages, immortal, invisible, the only God, be honor and glory forever and ever. Amen. So you may ask, "but what about Jesus?" I've already said that he appears in the Old Testament physically. This may even be him here. As God come in the flesh the second person of the Trinity, God the son he existed on the earth for three years physically as a human being. And yet, Jesus himself says in [John 16:7-11](#) **7 Nevertheless, I tell you the truth: it is to your advantage that I go away, for if I do not go away, the Helper will not come to you. But if I go, I will send him to you. 8 And when he comes, he will convict the world concerning sin and righteousness and judgment: 9 concerning sin, because they do not believe in me; 10 concerning righteousness, because I go to the Father, and you will see me no longer; 11 concerning judgment, because the ruler of this world is judged.**

Jesus was saying that it was better for him not to physically be in their presence because in the invisibility of God, the presence of God the Holy Spirit would be completely known by God's people. Let me try to say it a different way. You don't need to see God physically, because you have the presence of God spiritually with you all the time indwelling you in the person of God the Holy Spirit. Now this is different in the New Testament and with the expanded universal covenant of grace and the formation of the church, than it was under the old covenant in the time of Abraham. According to Jesus then, we actually have an advantage of not having these physical visitations from God the Son, because what we have instead is the constant abiding presence of God the Holy Spirit.

And of course Abraham welcomes these visitors as honored guests, because he recognizes the heavenly nature and divine blessing of their visit. Now, in just a few verses we see the preparations for this meal that are made. But if you look at the preparations that go into this meal, this is a significant feast that took time to prepare. There was no fast food at this meal. A calf was killed, bread was baked from scratch, a feast was laid out. And then, I'm sure everyone joined in to eat with these guests. Can you imagine what Abraham's conversation was like with God himself, likely the God the Son, Jesus Christ, in his presence during the time that this meal was being prepared and being served. While God came to give Abraham a message and specifically Sarah a message, Abraham turned this meeting with God into an extended time a fellowship together. And church, this same God is still present with us today through the third person of the Trinity, God the Holy Spirit. So, it is still possible for us to spend time with God in fellowship, in talking, in learning, in listening, to him today. So how do we do that?

[2 Peter 1:19-21](#) tells us, **And we have the prophetic word more fully confirmed, to which you will do well to pay attention as to a lamp shining in a dark place, until the day dawns and the morning star rises in your hearts,** Now the Prophetic Word is the Scripture, The Bible. That becomes clear as Peter continues in verse 20. **20 knowing this first of all, that no prophecy of Scripture comes from someone's own interpretation. 21 For no prophecy was ever produced by the will of man, but men spoke from God as they were carried along by the Holy Spirit.** So God the Holy Spirit, who indwells us as believers, is the one who formed the word of God- The Bible, that we have today. And it is in that Word that God speaks. When you are reading the Bible, you are literally reading the words of God. You're not reading a textbook about God or a book that contains thoughts about or even some thoughts from God; but you are literally reading a letter given to you from God himself!

Now, this passage is focused on God confirming his covenant to Sarah. And today, God still confirms his word to us, his promises to us. He confirms to us the promises of the gift of Salvation and the grace for daily living, even for life itself, and so many other promises. God confirms those to us through meeting us in the Word of God. Just as he came physically to Abraham, he comes spiritually to meet with us as we go into the word of God, where he confirms his promises to us. **Now, if you knew that God was coming to your house, you would do the same thing that Abraham did here. You would make a huge meal. You would set out the best**

dishes- the best china. You would clean your house from top to bottom. And you would want to spend as much time as possible in order to maximize and get the most out of this visit. Every day, you have the opportunity to meet with God. All you have to do is pick up this book. And yet, for how many of us, and I do say us, does it sit for too many hours of the day or maybe the week or maybe the month and collect dust? We rush through 5 minutes of Bible reading and we think we've done our part. We climb into bed tired at night only able to breathe a quick prayer but spend no time hearing from God in his Word, and then wonder why we never experience the closeness Of God like Abraham did. It's not a big secret how to spend time with God and how to hear from the Holy Spirit. Get into God's word. It doesn't have to be some formal hour of Bible study every day. You don't have to understand everything that you read. It's okay to have questions. It's okay to have days where you are tired and where you don't have time to open up the word of God. Sometimes what we need is just one passage that we're meditating on that comes back to us time and time again, that God is using to speak to us and shape us to help us serve him that day.

In [Deuteronomy 6:6-8](#), God instructs the Israelites about God's Word by saying, [6 And these words that I command you today shall be on your heart. 7 You shall teach them diligently to your children, and shall talk of them when you sit in your house, and when you walk by the way, and when you lie down, and when you rise. 8 You shall bind them as a sign on your hand, and they shall be as frontlets between your eyes. 9 You shall write them on the doorposts of your house and on your gates.](#) As a disciple of Jesus Christ, we are to be people of the Word as we spend time with our God. That involves having a life that is saturated by the Word of God, so that it naturally becomes part of what we think about, talk about and act upon in our daily lives. That is how we spend time with God in his Word.

Now I said that this passage focuses on Sarah. It seems that these messengers had come specifically to give the same prophecy of a son to her, as had been given to Abraham. Let's read verse 9-15 as we see what happens when she hears this message. [9 They said to him, "Where is Sarah your wife?" And he said, "She is in the tent."<sup>10</sup> The Lord said, "I will surely return to you about this time next year, and Sarah your wife shall have a son." And Sarah was listening at the tent door behind him.<sup>11</sup> Now Abraham and Sarah were old, advanced in years. The way of women had ceased to be with Sarah. <sup>12</sup> So Sarah laughed to herself, saying, "After I am worn out, and my lord is old, shall I have pleasure?" <sup>13</sup> The Lord said to Abraham, "Why did Sarah laugh and say, 'Shall I indeed bear a child, now that I am old?' <sup>14</sup> Is anything too hard for the Lord? At the appointed time I will return to you, about this time next year, and Sarah shall have a son." <sup>15</sup> But Sarah denied it, saying, "I did not laugh," for she was afraid. He said, "No, but you did laugh."](#)

Now I said that this visit from God seems to be not necessarily for Abraham but to deliver a message to Sarah. And so, they ask where is Sarah. And before they could even tell her in person, she hears them tell Abraham what they came to tell her. It is the same message that Abraham has just received in the previous chapter- that within the year they would have this promised child. But we're given some very important information here, some very personal information, that you don't normally talk about in polite company. Sarah had gone through menopause and she could no longer have children. Medically, physically, humanly, it was impossible. And so she does the same thing as Abraham does - she laughs. She laughs because she knows that she can't have kids. She says she's worn out... she's married to an old man... it's impossible for her to have children.

But Sarah forgot who was giving her this information. She forgot who was making her this promise. Because God's response to her through her husband is "why are you laughing? Is anything too hard for the Lord." Is anything too hard for God? And the answer that we should be thinking... the answer that we know is the right one from the Bible... is absolutely not!

Jeremiah 32:17 says, 17 'Ah, Lord God! It is you who have made the heavens and the earth by your great power and by your outstretched arm! Nothing is too hard for you. Of course, Sarah is embarrassed by her response as we would be too, and tries to deny it. But you can't hide anything from God. God puts up with our disbelief, with our laughing, with our doubt and still keeps his promise. This is why it is important to go back to where we started in this message – the Word of God. Even when we have doubts, even when we laugh in disbelief, we receive the message from God, "trust me!"

**Is anything too hard for the Lord?** No, it is not. We go to God's Word; we hear his words of promise and assurance and protection and leading. And it is in that relationship built in the constant work of God's Words on our lives that we learn to trust him. A year after this, Sarah and Abraham will have no problem trusting God, because they will hold Isaac in their arms. And this story is here in the Bible to benefit us as we read it, to know that we can trust that same God with our lives, our families, our finances, and our future. Nothing is too hard for him. The laughing response of Sarah led to the promised child that moved the plan of God forward to bring the ultimate promised Messiah, Jesus Christ into the world. He is the focus of all of God's revelation to us in His Word. So, as we read the Word of God and listen to God, he is revealing more of Christ and his life to us who are his disciples. We need to trust his promises received through his Word and know that nothing you are facing today or tomorrow or in the future is too hard for the Lord! God is able to keep his promise. Let's Pray.